

基本計画（中間案） 広域まちづくり構想

北部グローバル構想	2頁
京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想	3頁
北山「文化と憩い」の交流構想	4頁
新名神を活かす「高次人流・物流」構想	5頁
スマートけいはんな広域連携構想	6頁

5つの広域まちづくり構想

<p>基本方針 (案)</p>	<p>5つのエリアの主なハード整備を中心に、整備施設の特徴・効果を生かすソフト施策も含めて「広域まちづくり構想」として推進し、地域全体をまとめた地域振興計画との連動により、地域の個性ある魅力づくりや更なる成長・発展につなげる。</p>
<p>構想(案)</p>	<p>■北部グローバル構想</p> <p>京都舞鶴港を拠点に海外（グローバル）に開かれた交流と、「誇れるふるさと」「住み続けられる地域づくり」「若者が戻ってくる地域づくり」（ローカル）をコンセプトとした広域的なまちづくり構想</p> <p>■京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想</p> <p>京都スタジアムを核に地域の医療系大学や総合型地域スポーツクラブと連携し、アスリートスポーツから府民・健康スポーツやウェルネス運動まで、元気あふれる広域的なまちづくり構想</p> <p>■北山「文化と憩い」の交流構想</p> <p>旧総合資料館跡地等の活用に向け、京都学・歴彩館や府立植物園、京都コンサートホールなど京都が誇る文化の集積を生かし、府民の交流を促進するまちづくり構想</p> <p>■新名神を活かす「高次人流・物流」構想</p> <p>新名神高速道路の全線開通という新国土軸形成を生かし、西日本最大級のアウトレットモールや次世代物流拠点の誘致など、人流・物流を核とした広域的なまちづくり構想</p> <p>■スマートけいはんな広域連携構想</p> <p>Ma a Sを中心に超スマート社会を先取りする次世代型の取組みに加え、相楽東部を「ゆとりの生活空間・癒やしの空間」としてエリアに取り込む新展開のまちづくり構想</p>

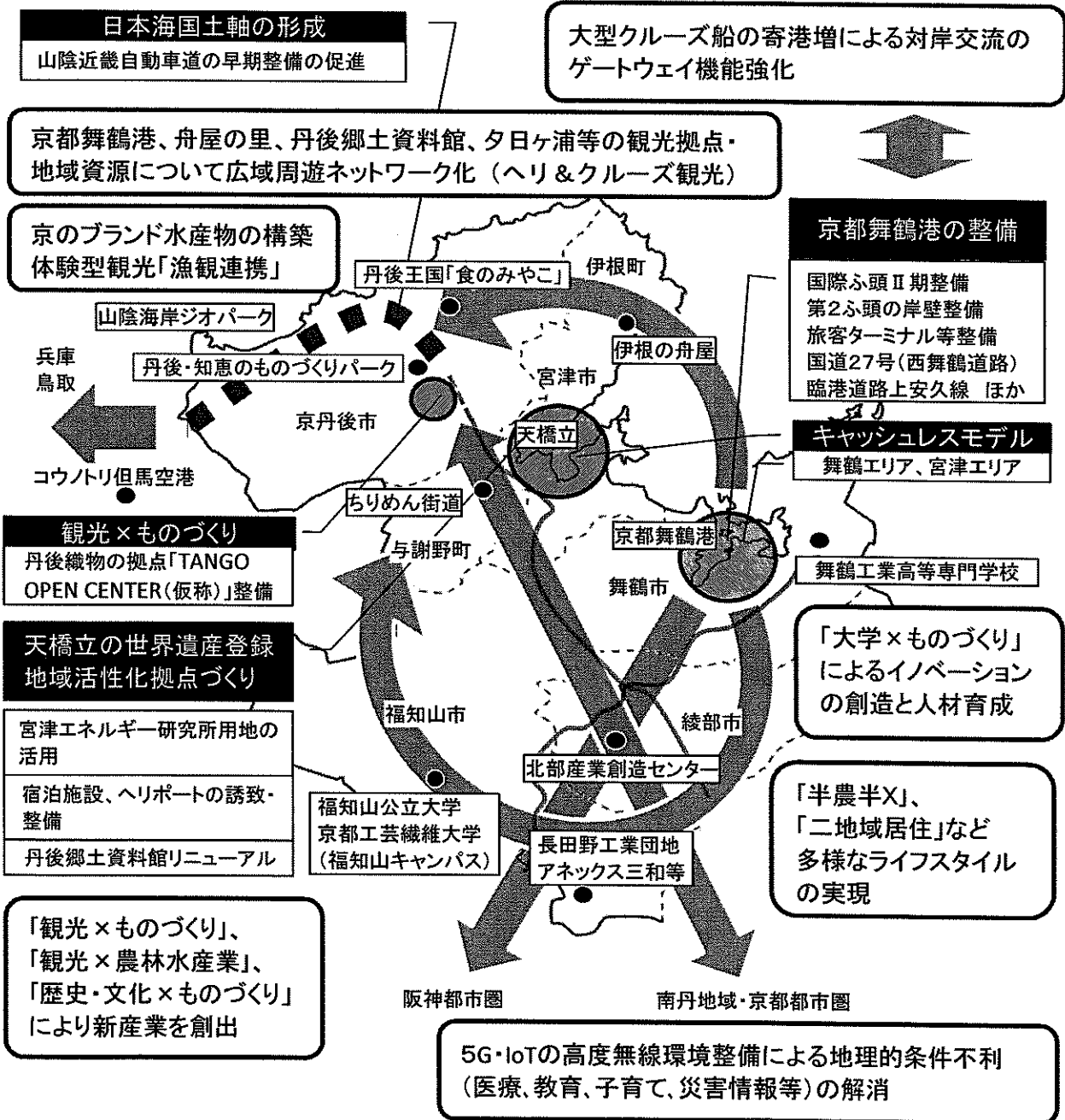
北部グローバル構想

■地域資源を生かした職住一体型生活圏の構築による魅力ある暮らしの実現

整備が進展する京都舞鶴港や高速道路網等の基盤を最大限に生かし、海外に開かれた交流と、「誇れるふるさと」「住み続けられる地域づくり」「若者が戻ってくる地域づくり」をコンセプトに、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会と連携し、新たな産業拠点の形成と職住一体型生活圏の構築を進めます。

【主要な取組】

- AI・IoT等新技術による魅力ある職住一体型生活圏の構築
- ヘリ&クルーズ等観光をベースとした新たな産業活性化の拠点づくり
- キャッシュレスモデルエリアの創設



京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想

■京都スタジアムを核とした元気あふれる交流都市圏の形成

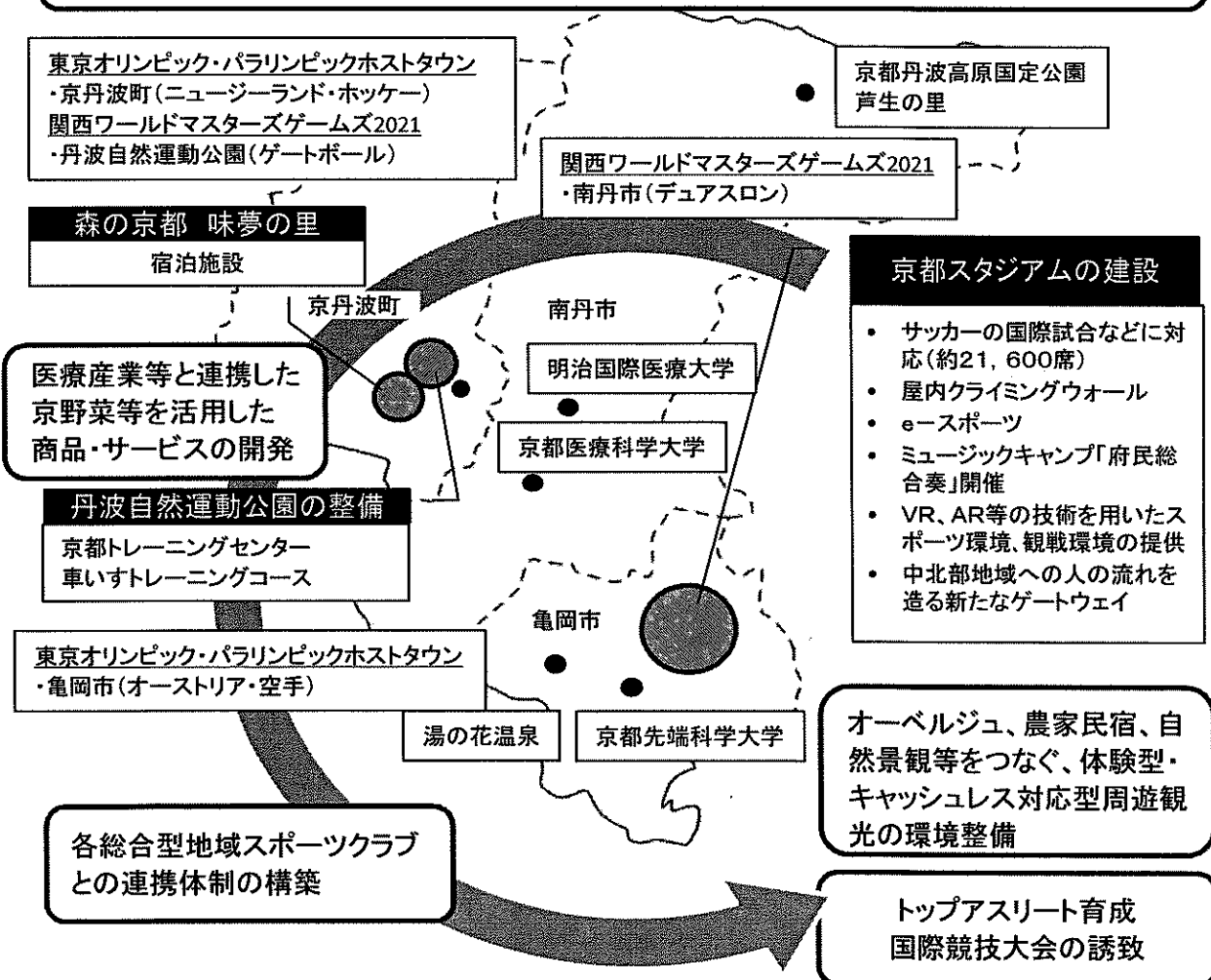
「京都スタジアム」の完成を契機に、大学や京都トレーニングセンター、府内スポーツ施設の連携を進め、丹波高原や桂川・由良川もフィールドとして活用しながら、内外から人が集まる日本有数のスポーツ・健康エリアとして、食やスポーツ科学と連携した地域づくりを進めます。

【主要な取組】

- トップアスリートの育成とスポーツのメッカづくり
- スポーツ、食や癒しによる健康づくりの先進モデル地域づくり

京都丹波地域におけるスポーツ施設や医療科学系大学等の立地状況を生かし、競技スポーツ・生涯スポーツを両輪で進めるとともに、温泉を生かした健康産業や自然環境を生かしたアクティビティ関連産業を創出

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンやワールドマスターズゲームズ2021の開催等を通じた国際交流やインバウンド等への外国語対応を促進



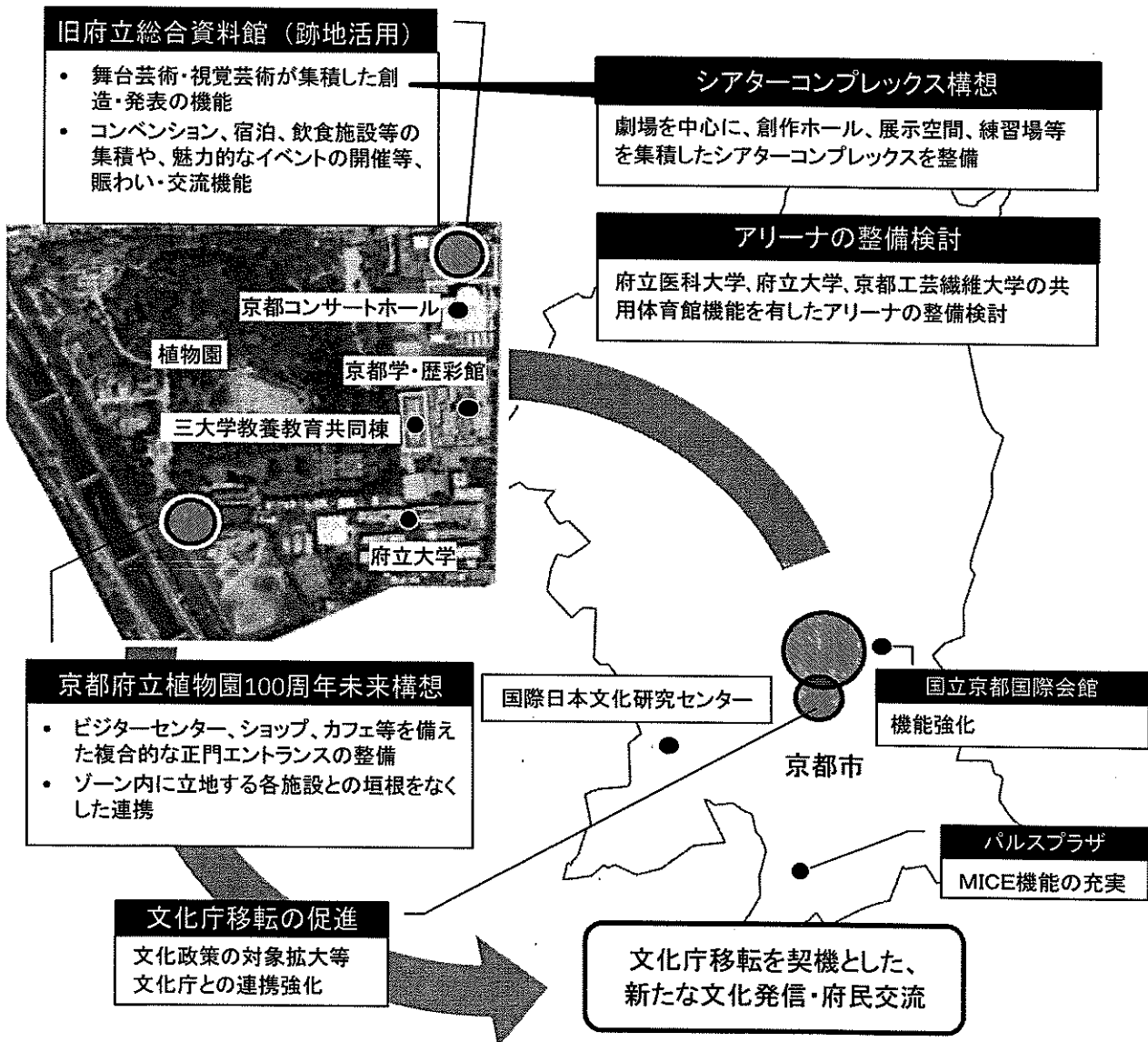
北山「文化と憩い」の交流構想

■京都が世界に誇る文化に包まれた交流拠点の確立

旧総合資料館跡地を活用した「シアターコンプレックス」や、開園100周年を迎える府立植物園の整備など、新たに芸術の発信や賑わい・交流機能を有する施設の整備に取り組むとともに、文化庁移転を契機とした新たな文化発信・府民交流の拠点づくりを進めます。

【主要な取組】

- 旧総合資料館跡地活用に伴う新たな文化芸術・交流発信拠点づくり
- アリーナの整備検討



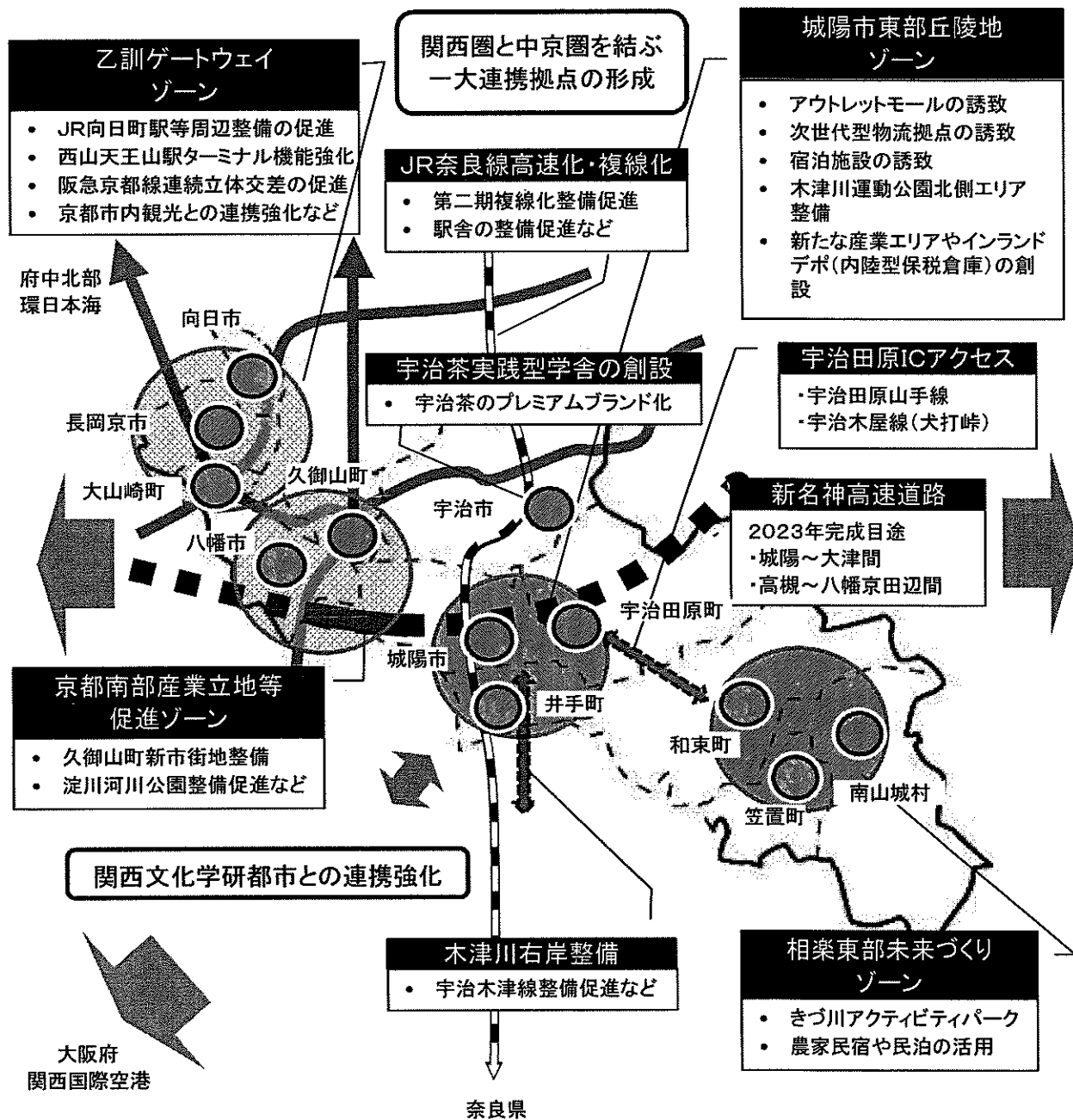
新名神を活かす「高次人流・物流」構想

■ 関西の「へそ」となる人流・物流・産業の広域拠点づくり

新たな国土軸である新名神高速道路の全線開通のインパクトを生かした人流・物流・産業の拠点形成に取り組むとともに、国際空港や港湾などとの連携も視野に入れた経済圏、良好な住環境を備えた生活圏の形成を進めます。

【主要な取組】

- 西日本最大級のアウトレットモールの誘致
- 次世代型物流拠点の誘致
- 新たな産業エリアやインランドデポ（内陸型保税倉庫）の創設



スマートけいはんな広域連携構想

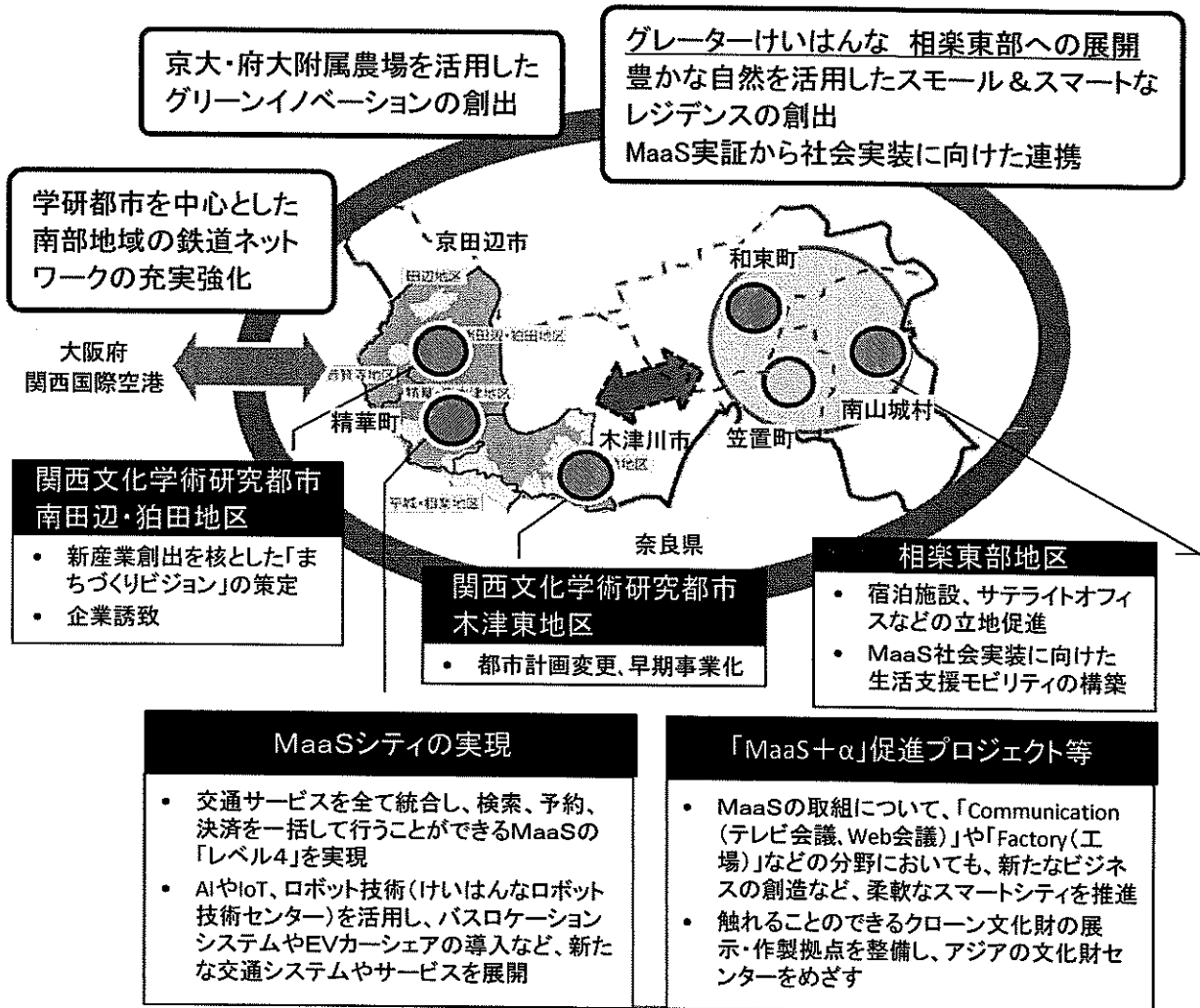
■環境にやさしく持続可能な「次世代型スマートシティ」の実現

未来の「超スマート社会（Society5.0）」を見据えた利便性が高い都市モビリティや安心・快適な生活環境等、スマートシティの実証を進めるとともに、「ゆとりの生活空間・癒やしの空間」である相楽東部地域まで拡大し、広域的に次世代型スマートシティの実現を進めます。

【主要な取組】

- 新交通システム等、MaaS (Mobility as a Service) の「レベル4（交通サービスの統合が進んだ状態の最高レベル）」の実現
- グレーターけいはんな・相楽東部地域への展開

学研都市×相楽東部の展開により「次世代型スマートシティ」の実現をめざす



2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)の開催に合わせ、科学や文化学術の体験型イベントを一体的に実施し、暮らしの中で文化・学術・研究の成果を感じられる機会を創出

